平成 16 年 10 月 14 日

各位

会 社 名　日本農産工業株式会社
代表者名　取締役社長　三好正俊
（コード番号 2051 東証・大証　第一部）
問合せ先　　経営企画室　小林　重紀
（TEL 045-224-3717）

薬物の血液脳関門透過性試験及び
ニワトリによる組換えタンパク質生産受託サービス

日本農産工業株式会社は、バイオ事業の一層の拡大を目指して、今般フランスのセリアル・テクノロジーズ社、並びに米国のバイオアグリ社とそれぞれ日本国内での販売代理店契約を締結し、製品・技術の販売、及び受託サービスを開始いたします。

１．セリアル・テクノロジーズ社（CELLIAL Technologies S.A.）は 2001 年にパスツール研究所からスピンオフしてフランスで設立されたバイオベンチャーで、in vitro での薬物の血液脳関門（Blood Brain Barrier）透過性を評価するための試験キット販売及び受託試験を行っています。血液脳関門とは、末梢血管と脳細胞との境界領域のことで、血中物質の脳細胞への透過を制御しています。創薬プロセスにおいては、脳神経系への効果を目指す候補化合物の効能や、逆に脳神経系に及ぼす副作用（毒性）を評価することが新薬開発の重要なスクリーニング項目となっていますが、セリアル社の技術によって、従来動物に頼っていた同評価試験が in vitro で可能になることから、この分野での新薬開発に必要とされるスピードとコストダウンのニーズに応えることが期待されます。

当社はバイオ事業の中で重点的に取り組んでいる ADME/Tox（薬物動態/毒性試験）分野の一環としてセリアル社の技術を積極的に紹介してまいります。従来の同分野ビジネスとの相乗効果を図りながら、血液脳関門関連で３年後に１億円の売上を目指します。

２．バイオアグリ社（BioAgri Corporation）は 1999 年にカリフォルニア州で起業したバイオベンチャーです。同社はニワトリの卵白中に組換えタンパク質を量産できる特許技術を持っており、“linker based sperm-mediated gene transfer process”として Science 誌（“Hatching the Golden Egg: A New Way to Make Drugs” Vol. 300, page 729-730, May 2, 2003.）にも紹介されていますが、従来哺乳細胞等で生産されている遺伝子組換えタンパク質と比較して安価に大量に生産することが可能となります。また生産されたタンパク質は

回収工程の自動化や精製も容易である等の利点があります。尚、同社は現有の研究生産設備に加えて、2005 年に稼動を予定している FDA の c GMP 基準に沿ったニワトリ飼育・タンパク質生産設備により、規模の拡大を目指しております。
今後組換えタンパク質医薬品の需要増加が予測されることから、同社技術への需要が高まるものと期待されます。

当社は既にご好評を頂いている昆虫細胞を利用した組換えタンパク質の生産や、遺伝子免疫法による抗体作製等の受託サービスに加えて、バイオアグリ社の技術によりタンパク質生産受託サービスの一層の充実を図り、３年後にバイオアグリ社関連で 1 億円の売上を目指します。

以上